

「総合英語」授業の研究

伊藤 詔子 (代表), 稲田 勝彦, 今里 智晃, 中村 裕英
研究プロジェクト・チーム (総合科学部)

目次

- I. 本研究プロジェクトの目的
- II. 「総合英語」の概念と教育目標及び授業実施の方法
- III. 「総合英語」のテーマ例
- IV. 「総合英語」のシラバス例と授業展開例
 - 1. 〈エコロジーの英語〉
 - 2. 〈地球言語としての英語〉
 - 3. 〈映画の英語〉
 - 4. 〈男性学入門〉
- V. 「総合英語」実施上の問題点
 - <付> 「総合英語」開設に至る経過
 - 参考文献
 - abstract

I. 本研究プロジェクトの目的

本研究は、広島大学の新しい外国語科目である「総合英語」の概念規定、教育目標の設定をおこない、具体的なシラバスと授業例を提示することによって「総合英語」授業の実施の参考例を示し、さらに実施後の調査等をおこなって「総合英語」授業の充実をはかることを目的とするものである。平成9年度から開設した「総合英語」は、平成8年度までの「総合英語」と名称が同一のためまぎらわしいが、新「総合英語」は旧「総合英語」とは目的・性格をまったく異にするものである。新「総合英語」は、教養的教育改革実施要項では、「英語を通じてその背景にある文化を理解するための授業科目。1期1単位」とのみしか規定されていないが、この授業科目を設置するにあっては、およそ次のような前提があった。

1. 比較的小人数クラスでおこなう技能別英語を拡充するために大人数(80名程度)クラスの授業を設ける必要がある。

2. 言語の文化的側面を重視し、大学生の知的レベルや好奇心にマッチした内容をもった外国語教育も必要である。

3. 方法としては、各授業にテーマを設定し、英文テキスト、視聴覚教材等を使用し、また、討論、小テスト等をおこなって、英語力の向上をはかる。ティーチング・アシスタントを活用する。

「総合英語」は、平成10年度の二年次生を対象に実施される予定であるが、授業担当予定者の間においても、上記のおよその前提以外は「総合英語」の概念、授業内容・方法等に関して必ずしも統一した見解はない。よってこの研究プロジェクトを企画した。

具体的には、次の諸点にわたって研究討議あるいは実施する。

1. 関連するテキスト・参考文献等の収集
2. 「総合英語」の概念と教育目標について
3. 「総合英語」の授業内容及び方法について
4. 「総合英語」のテーマ例について
5. 「総合英語」のシラバス・授業展開例について
6. 「総合英語」の成績評価について
7. 全国主要大学で計画・実施されている類似授業の調査
8. 「総合英語」実施後の実態調査及び教育効果の測定
9. 調査・研究結果の公表

上記のうち、1～5は平成9年度におこない、ここにその中間報告をする。6～9は平成10年度におこない、最終報告をする予定である。また、広島大学において「総合英語」を開設するに至った経緯については、〈付〉において記した。

なお、本稿のうち、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ及びⅣの1は伊藤、Ⅳの2は今里、Ⅳの3は中村、Ⅵの4及びⅤと〈付〉は稲田がそれぞれ執筆した。

Ⅱ. 「総合英語」の概念と教育目標及び授業実施の方法

- 1) 「総合英語」は広島大学の英語教育改革において、平成10年度から新二年次生に対して初めて実施される授業であり、平成8年度まで一年次生に開講されていた総合英語とは異なる新しいコンセプトを持つ。
- 2) 一年次生に開講されている技能別英語が、30人から35人くらいのクラスを対象とした4技能の修得を目標としているのに対し、「総合英語」は技能別英語で修得した学力を基礎に、英語圏言語文化及び関連領域に関わるあるテーマを設定し、そのテーマを理解する中で英語力を総合的に修得することを目的とする。クラス規模は80人くらいの学生を対象とすることが決定しており、この条件を絶えず念頭に置き授業計画をたてる必要がある。
- 3) 重要なことは問題を自分の文化や経験というコンテキストの中で検討し、ビデオやテキストで提供されているテーマと表現内容・言語と概念を自分の観点から統合する能力を総合的に鍛える機会を与えることである。
- 4) 以上の目的達成のためには一貫した適切なテーマの選択が鍵となり、一定のテーマ理解のために有機的に編集された教材が15回分必要で、教材の総合性も重要である。
- 5) 授業展開においてテーマ理解のための教材提示は、ビデオ教材・絵画・地図・音楽等視聴覚関連資料を多用し、学生の勉学意欲を多角的に引き出す点を特徴とする。
- 7) 授業実施のもう一つの特性として、グルーピングによるディスカッションやディベート、協同作業、ホームタスクなど学生の自主的学習を促進する展開を工夫する必要がある。
- 8) 教材提示と内容把握、言語と表現理解において、一回の授業を組織的かつ有機的に組立てるために、以下の授業展開プロセスまたはそのヴァリエーションが有効であろう。

a. 〈previewing〉 〈prereading〉

教材を提示する前に、学生たちに各ユニットが何を扱っているのかあらかじめ予測するよう求め、学生たちの知的関心を活性化させる。また学生たちが授業にどのような背景的知識を持ち込むのかを教師も知り、その知識を有効に活用する。さらにこのユニットのキーワードをこの段階で挙げておき、教材の枠組みを理解させる。

b. <global viewing> <general reading>

このセクションでは、まず教材全体を提示し、学生たちの全体的な理解とメイン・アイデア、またはストーリーの粗筋を把握する能力に重点を置く。

c. <language focus>

このセクションでは、学生が教材とテーマ理解を達成するために使う必要のある、語彙や表現の練習を行う。当該ユニットに見られる言語構造の興味深い点に関する練習問題や語法の練習、また語の文化的・歴史的背景を解説する。

d. <intensive viewing> <intensive reading>

このセクションでは、学生たちにテキストの細部に注意を向けさせ必要に応じて視聴を繰り返し、理解を促す特定の項目が取り上げられた設問に答えたりディクテーションをしたりノートを取って、細部を読み聴解し理解する。

e. <postviewing> <postreading>

このセクションでは、読み物やグラフ、アンケートなど、ユニットのトピックに関する様々な追加資料・教材を提供し、学生が習得した言語や内容に関する問題を総合的に練習したり、ディベート、ブレーンストーミング、討論、価値表明の練習レポートやエッセイのアサインメントなどといった、幅広く様々な作業を行う。更に宿題のかたちにして、次の時間の冒頭で発表させ、ユニットずつ確実に習得させ、それをミニテストなどで確認する。

III. 「総合英語」のテーマ例

プロジェクトチームの専門領域にあわせて設定可能なテーマとして以下のものを考えた。その際特定の学部でなくどの学部でも適応可能なテーマとした。テキストに関していうと(a)既存のテキストをベースにするもの (b)主として既存のテキストを使うが授業展開の部分を作成するもの (c)100%固有のテキストを作成するものに分けられる。

1) <地球言語としての英語>(b)

内容：世界共通語になった英語のさまざまな面を概観し、その歴史を通して共通語になった理由を考え、英語によるコミュニケーションの実体を把握する。

2) <世界が見つめる日本>(a)

内容：留学生やビジネスマンに日本はどう映るか。文化や生活習慣など現代日本のありのままの姿をかれらが使用する生きた英語で表現する教材を用い、同時に国によるノンバーバル・コミュニケーションの違いについても学ぶ。

3) <エコロジーの英語>(a)(b)

内容：エコロジーをめぐる様々な英語情報を聞き取り、自然を巡るエッセイや科学的解説の英文を読む力を総合的に鍛える。環境問題を語るための基本的語彙や、状況理解を促進するために、熱帯雨林の開発問題や、河川の汚染などに関わるニュースビデオを利用する。

4) <歴史に残る英語スピーチ>(b)

内容：歴史を動かしたスピーチを、時代背景や文化を考察しながら聴き、読み、さらに有名な箇所部分的暗唱を通して、英語の抑揚を身につける。

5) <野生の生き物と共に生きる>(a)

内容：既存のテキスト *Other Nations: Animals in American Nature Writing* (伊藤他編) を使

い、授業展開においては、ビデオ、地図、作者が吹き込んだテープの聴取などを組み合わせ、理解の促進を図る。

6) 「女性と社会」(b)

内容：「女性と社会」をテーマとした既存のテキストを使う授業展開を研究する。女性の社会的地位向上の歴史を辿り、大きな貢献をした人物のエッセイや、時代考証に役立つ絵画等の資料を紹介しながら重要な文書を読む。

7) 「映画の英語」(b)(c)

内容：現代の社会を表象する映画を取り上げ、映画の表象とリアリズムの問題、都市の表象の問題、人間関係の問題を考えていく。教材は映画に関する理論を分かりやすく説明する英語のテキストと、それを具体的に映像で表現したビデオ、さらにはビデオのSCRIPTからなる。市販されているものは点数が少なく作品も限定的なので、適当なテーマに基づく映画についてSCRIPTを入手し、テキストを編集・制作する。

8) 「現代におけるシェイクスピア」(c)

内容：シェイクスピアは400年前の作家であるにもかかわらず、依然として現代文化に大きな影響を与えている。当時そのままのシェイクスピアの劇場がロンドンに建設された映画化も盛んである。こうした現象をひとつの文化現象として把握し、その原因や影響について分析を試みる。もちろん、文学としての面白さも伝えていく。シェイクスピアは市販されているのは購読のテキストがほとんどなので、様々な要素を盛り込んだテキストを編集・制作の必要がある。

9) 「男性学入門」(b)(c)

内容：女性学に対し男性学を考えるべき時代に入っているため、その序論的評論作品をもとに女性学の知見も交えながら理解していく。読解を中心にしたテキストを編集・制作し、関連の映画も視聴する。

IV 「総合英語」のシラバス例と授業の展開例

以上のテーマを検討した結果、来年度実施可能なものとして、以下の4例のテーマの授業目標とシラバス及び一回分の個別授業の展開例を示す。

1. <エコロジーの英語>

シラバス

授業の目標等

エコロジーの英語の基本語彙や事実を学び、エコロジーに関わる諸問題を英語で把握し、環境保護の発想や思想に触れて世界の人々の活動をビデオの視聴を通して理解する。更にこの分野についての意見発表と議論の力を養成する。また問題を自分の文化や経験の中で検討し、ビデオで提供されている事実と表現を自分の観点から統合する機会を持つ。

授業の内容・計画等

PART I PLANT AND ANIMAL HABITATS

Unit 1 Introduction: Little Being Done to Stop Animal and Plant Extinction

Unit 2 Medicines of the Rain Forests Disappearing

Unit 3 Marjory Douglas, 98-Year-Old Environmentalist

PART II AIR, LAND, AND WATER

Unit 4 EPA Says Ozone Depletion More Serious Than Thought

Unit 5 Energy Needs Versus Alaskan Environment

Unit 6 Ocean Plastic Pollution

PART III ENERGY, RESOURCES, AND RECYCLING

Unit 7 Kyoto Conference on Global Warming Gasses

Unit 8 Scientific Essay on Agrochemical

Unit 9 Recycling and Other Solutions to the Trash Problem

PART IV IDEAS AND APPLICATIONS

Unit 10 Environmental Essay

Unit 11 A Look at World Mass Transit

Unit 12 Environmental Lifestyle and Awareness

テキスト

ESL Video Library, *Focus on the Environment* プラス自主制作テキスト

このビデオシリーズは、Business World, PrimeTime Live, 20/20, Nightline, The Health Show, World News Tonight など、国際的に知られている ABC ニュースのプログラムから実際の放送フィルムを使用し、世界的な作家やリポーターによって提供されるタイムリーなトピックに対する学生の興味を喚起しようとしている。*Focus on the Environment* は、12本の実際のニュースレポートによって構成されているがアメリカが中心なので、世界的な状況を反映する雑誌素材や読み物を加えていく。各 unit がそれぞれ異なる環境問題や環境への態度に焦点を当てている。

メッセージ

テキストの全体的な目標は三つあり(1)扱われている環境問題についての理解を助ける。(2)これらの問題を学ぶことで環境意識を育て、現実への批判的な思考を促す。(3)ビデオで提供される言語の語法を修得する。学生たちは、グローバル・ヴィレッジのコンテキストの中で海外文化を見、自身の文化的な観点を持ち込んで、ビデオを分析したり解釈したりすることが求められるので積極的に授業に参加する必要がある。

授業展開例

(この部分は情報としては古いですが、オゾン層破壊が判明した初期の状況を知り、現状と比較することを目指している。)

テープスクリプト 4: "EPA Says Ozone Depletion More Serious Than Thought" from: American Agenda, September 18, 1991

Announcer: From ABC, this is World News Tonight with Peter Jennings.

Peter Jennings: Like the President, we've put the environment on the American Agenda tonight. When the space shuttle Discovery landed at Edward's Air Force Base in California early this morning, it was completing a mission to, among other things, deploy the first of a series of satellites designed to take a close look at the Earth's environment from 370 miles up. For at least the next two years, this first satellite will send back data on the ozone layer, which scientists say is being eaten away at an alarming rate. Our Agenda reporter is Ned Potter.

Ned Potter: Every astronaut who looks back from space marvels how delicate the atmosphere

seems. Its ozone layer for instance is very thin but absolutely critical. Without it the sun's ultraviolet rays would make the earth unlivable. Instrument on planes and satellites have already proved the ozone shield is being thinned out, but the latest report from the Environmental Protection Agency had stunning news. The EPA, which rarely sounds alarmist, says the ozone problem is twice as bad as anyone expected.

William Reilly, EPA: Ozone depletion is in the top category of threats to health and the environment for the United States and the rest of the world.

Dr. Michael Oppenheimer, EDF: We should act as if the ozone depletion situation is an emergency. We should pull out all stops.

Ned Potter: But making that happen is no small task. It means getting rid of CFCS, the chemical lifeblood of car air-conditioners and refrigerators, of foam insulation and computer factories. As those CFCS escape slowly into the upper atmosphere, they destroy the ozone layer that protects us. In the '80s the world was surprised by the ozone hole near the South Pole, now the EPA says Northerners are at risk, too.

Dr. Sherwood Rowland, University of California: It isn't just a question of less ozone over Antarctica, it's less ozone over the United States, Western Europe, all of the developing countries, all the developed countries.

Ned Potter: The EPA says there could be serious consequences: 12 million Americans may get skin cancer in the next 50 years; cataracts and immune disorders will increase, there could even be a threat to the food supply if crops and ocean life are killed by ultraviolet rays. So what do we do? Under United Nations guidance, 90 countries have already agreed to phase out CFCs, most by the year 2000, but now officials say those deadlines may not be soon enough. The pressure is now on industry to come up with solutions fast. The biggest obstacle is finding a replacement to run air-conditioners and refrigerators. That's crucial because they alone use almost half the world's CFCs. Dupont, the world's largest maker, has developed new coolants that do 90 percent less harm but even at that level the ozone problem would continue to worsen. To environmental groups that's not good enough. They say we need more research to find chemicals that are totally safe.

Elizabeth Cooke, Friends of the Earth: The ozone layer is in absolute critical condition and the problem is continuing to get worse. The worst thing that we can do is to develop a new generation of ozone depleting chemicals that will continue to destroy ozone.

Ned Potter: Dupont says a totally clean chemical would require totally new air-conditioners.

Tony Vogelsberg, Dupont: The real issue with the phaseout is that you can produce new equipment using alternative chemicals, but how do we service existing equipment. You cannot replace it all at one time.

Ned Potter: Some local governments, like the one here in Denver, say we cannot wait for the perfect solution, let's do what we can right now. Mechanics used to vent CFCS into the atmosphere routinely, but Denver has now made that illegal. Air-conditioning repairmen here now wear backpacks designed to suck up CFCS rather than let them escape. And refrigerator repairmen now bring ozone saver bags to your home. It's the law, but it's also good business.

It turns out CFCS can be recycled and sold instead of wasted.

Mike Mayers: Obviously you know we're not making a global difference, we're trying to make a difference in our corner of the world and that's what we started here in the city of Denver.

Ned Potter: The satellite launched on this week's shuttle mission will provide more information on ozone loss, but the world already knows what has to be done. The threat to our ozone layer has become a test of whether we can meet a clear and present danger to the globe. Ned Potter, ABC News, New York.

Video text C 1991. American Broadcasting Companies, Inc. All rights reserved.

補助教材：森林伐採，酸性雨，リサイクリング等各教材に関連したニュースビデオ，ニュースの素材となっている地方の地図；各セクションのテーマにそった新聞記事やその他の読み物等
テキストの構成と授業の進め方

<Previewing>

- 1) 以下の設問を日本語で聞き，日本語で答えさせる。
1. What is the ozone layer? Why is it important to life?
 2. What causes ozone loss?
 3. What are some of the effects of ozone loss?
 4. What is being done to prevent ozone loss?
 5. What are some obstacles to reducing ozone loss?

Ozone Depletion について初めて指摘した記事を参考資料として示す。

- 2) 基本語彙を含む文章を取り出して説明する。
1. Space shuttles are used to deploy satellites.
 2. Ultraviolet rays cause sunburn and promote skin cancer.
 3. The forest fire caused a depletion in the wildlife population.
 4. His vision improved greatly when his cataracts were removed.
 5. She was hospitalized because she had an immune disorder.
 6. Automobile engines vent carbon monoxide into the air.

<Global Viewing>

視聴のあと大体的内容について以下の設問に答えることで全体を把握する。

1. What do scientists say is happening to the ozone layer?
 - a. They say it's getting bigger.
 - b. They say it's being destroyed rapidly.
 - c. They say it's moving closer to the earth.
 - d. They say it's staying the same.
2. Why is the ozone layer important to life on Earth?
 - a. It protects the earth from the ultraviolet rays of the sun.
 - b. It keep the earth in orbit.
 - c. It makes it possible to deploy satellites.
 - d. All of the above.
3. What did the EPA (Environmental Protection Agency) report say about the ozone layer?
 - a. It said the problem was really nothing to be concerned about

- b. It said the problem had been eliminated.
 - c. It said the problem had been slowed down by 90 %.
 - d. It said the problem was twice as bad as expected.
4. What is causing the depletion of the ozone layer?
- a. CFCs.
 - b. The EPA.
 - c. Satellites.
 - d. All of the above.
5. Besides over the South Pole, where else has there been a loss of ozone?
- a. Over the United States.
 - b. Over Western Europe.
 - c. Over all of the developing countries.
 - d. All of the above.
6. What is the biggest obstacle to reducing ozone depletion?
- a. Finding a replacement for CFCs.
 - b. Servicing existing air conditioners and refrigerators.
 - c. Getting local governments to cooperate.
 - d. Finding a way to recycle of CFCs.

<Language Focus>

ビデオスクリプトを音読し注意すべき語の用法，語句を指摘していく。テキストについている設問を利用してよい。

例) Every astronaut who looks back from space marvels how delicate the atmosphere seems. Its ozone layer, for instance, is very thin but absolutely critical; without it, the sun's ultraviolet ray would make the earth unlivable. この文章に含まれる以下の英語の用法に注意をむけさせる。

(テキストの設問は以下のとおり)

1. marvels:
- a. is surprised or astonished (at)
 - b. is bored (by)
 - c. doubts
 - d. is uncertain about
2. delicate:
- a. of thick, strong material
 - b. of fine, thin material
 - c. of dark-colored material
 - d. of light-colored material
3. critical:
- a. easy to destroy
 - b. hard to destroy
 - c. important
 - d. unimportant

<Intensive Viewing>

I ビデオを繰り返し見て(これはホームタスク)またスクリプトを読んで、以下の設問をグループで解き英語の解答をグループで発表させる。(グループ分けは8人くらいで構成しておき作業単位とする)

1. What are some uses of CFCs?
2. What health problems are mentioned as possible consequences (results) of ozone depletion?
3. How many countries have already agreed to phase out CFCs, and by what deadline?
4. What is Elizabeth Cooke's opinion regarding the seriousness of the ozone problem?
5. According to Tony Vogelsberg, what is the problem with phasing out existing air conditioners and replacing them with machines that use alternative chemicals?

II ビデオの最後にあるデンバー市の取り組みをまとめるとどうなるか、各グループで作業し、類似の取り組みが日本で行われているか話しあい、全体を10行くらいの英文にまとめる。

<Postviewing >

I WHAT DO YOU THINK?

以下の各設問についての意見を各自発表できるように次週までに準備させ発表させる。

1. What have you learned from this video?
2. Many countries have agreed to phase out CFCs, but many developing countries China, for example have refused to sign the agreement Why do you think this is so?.
3. Based on the information on the video, do you think the threat to the ozone layer will increase, stay the same, or decrease? Give reasons for your answer.

II FINAL TASK: DEBATE

10グループ全体を Team A と Team B に分け上の2の問題に関し debateを試みる。debateのやりかたについてはテキストに書いてある部分に加え日本語でルールを説明する。5組のdebateを行う。なおここは1回目で15回の授業のうち3回試みて方法を徐々にマスターしていく。(テキストの説明)

Follow the procedure below when conducting the debate:

- A. Team A begins with a three minute presentation.
- B. Team B then gives a three-minute presentation.
- C. Team A gives a three-minute response to Team B's presentation.
- D. Team B gives a three-minute response to Team A's presentation.
- E. The moderator evaluates the strengths of both arguments.

TEAM A

You will take the view of the industrialized countries, that everyone should stop using CFCs. You believe that all the countries of the world should follow the example of the 90 countries who have already signed the Montreal Protocol and agreed to reduce their use of CFCs.

TEAM B

You will take the view of the developing countries who want a better standard of living at the lowest possible cost. You believe that the lifestyles of the people in developing countries will

be improved by allowing them to produce the products that are found in Western homes.

2. <地球言語としての英語>

シラバス

授業の目標等

今日、英語は世界のさまざまな分野で最も重要な言語になった。インターネットはその象徴的存在である。そこでは英語が国家、民族、地域といった枠を超えた地球的な規模で他の言語に抜kindんで重視され、情報の交換や蓄積に最も重要な役割を果たしている。この授業では、ビデオを見、テキストを読むことによって、英語がこうした「地球言語」の地位を確立したのは何故なのか、一口に英語と言っても世界各地でどのような違いがあるのか、英語を母国語としない社会で英語を使うことはどのような意味があるのかなどについて考え、ビデオに出てくる世界各地の多様な英語を理解するとともに、語彙や表現の学習を通して英語の総合力を修得することを目指す。

授業の内容・計画等

BBC が制作したビデオ *The Story of English* と同名のテキストを併用し、以下のタイトルに沿って進める。さらに、カセットテープを使い、リスニングと発音の練習を行う。

- 1 週目 An English-Speaking World-1
- 2 週目 An English-Speaking World-2
- 3 週目 The Mother Tongue-1
- 4 週目 The Mother Tongue-2
- 5 週目 A Muse of Fire-1
- 6 週目 A Muse of Fire-2
- 7 週目 The Guid Scots Tongue-1
- 8 週目 The Guid Scots Tongue-2
- 9 週目 The Irish Qustion-1
- 10 週目 The Irish Qustion-2
- 11 週目 Black on White
- 12 週目 Pioneers! O Pioneers!
- 13 週目 The Echoes of an English Voice
- 14 週目 The New Englishes
- 15 週目 期末試験

ビデオ

The Story of English. (BBC 制作)

テキスト

McCrum, R. et al. 1986. *The Story of English*. Harmondsworth, Middlesex: Penguin Books.

なお、成美堂、南雲堂、英宝社など日本の教科書出版社が制作した同名のテキストもある。これらのテキストは一部抜粋版や平易な英語に書き換えたものであるが、これらを使用することは差し支えない。

メッセージ

テキストの目標は(1)英語は現在地球上のいろいろな分野で共通語として最も重要な言語であるこ

と、(2)英語は決して一つではなく、世界各地で固有の特徴を持っていることなどを理解することである。

授業展開例

Chap. I 'An English-Speaking World-1'

<Introduction>

ビデオを見る前に以下の事柄について簡単に説明する。

1. 今日、英語は世界各地のどのような分野で使用されているか。
2. 生きた言語は絶えず変化するため、英語でも実際に形態や用法にかなりの差がある。
3. RP (=Received Pronunciation), 訛り, 方言, 変種などの定義。
4. 世界各地で使用されている多様な英語によるコミュニケーションの本質を探る。

<Previewing Exercises>

これから見るビデオやテキストに出てくる語句の意味をエクササイズ形式で確認させる。

Choose the word or phrase with the same or similar meaning.

1. Some academic studies tend to dwell on the catalogued literary past.
a) write about b) live on c) arrange d) research
2. The authors have drawn on a wealth of original material.
a) made use of b) painted c) put aside d) collected
3. I send greetings on behalf of the people of our planet
a) as the representative of b) because of c) instead of d) by means of
4. They were deprived of their political rights.
a) were taken away from b) lost sight of c) were restrained from d) were permitted

<Program Watching>

ビデオを見せる前に、ストーリーの内容についてあらかじめ簡単に解説をする。

(a brief outline and main topics to be dealt with in the video-script of chapter 1)

1. English at the end of the twentieth century is more widely scattered, more widely spoken and written, than any other language has ever been. For example, three-quarters of the world's mail, and its telexes and cables, are in English. So are more than half of the world's technical and scientific periodicals: it is the language of technology from Silicon Valley to Shanghai. English is the medium for 80 percent of the information stored in the World's computers. Nearly half of all business deals in Europe are conducted in English.

It is the language of sports and glamour: the official language of the Olympics and the Miss Universe competition. English is the official voice of the air, (script: "Hello, Milano...Alitalia 305, ... Contact. Geneva, bon soir, from Alitalia 305...") of the sea, and of Christianity: it is the ecumenical language of the World Council of Churches. Five of the largest broadcasting companies in the world transmit in English to audiences that regularly exceed one hundred million.

2. Narrator: "My name is also MacNeil, Robert MacNeil. My branch of the clan left the land four generations ago and settled in the United States and Canada. I was brought up in Halifax, Nova Scotia and educated in Canadian schools. The way I speak English is the product of that background, modified by thirty years as a journalist in Britain and in the

United States.”

3. The Spread of Received Pronunciation (RP)

BBC English and American English

R. Quirk: “Although it was because of the British Empire that perceived pronunciation became so prestigiously world-wide. And with the decline of the British Empire,...”

4. English in India

A professor: “That impression was that in the post-colonial period, there would be a shift, a drastic shift from English to native language to us... English is considered, in some sense, a neutral language. If Hindi was imposed on someone, it is somebody’s first language or if another Indian language, or another African language, is imposed on somebody, they have, that’s say, some privileges. They are the native speakers...”

5. The Pragmatic Reason for English-language Education in Sierra Leone

President Siaka Stevens: “If you want to earn your daily bread, the best thing to do is to learn English. That is the source from which most of the jobs come.”

6. The Rise of American English as the Standard after World War II

< Postviewing Exercises >

1. True-False Questions

- 1) Fishermen, wheelwrights, cowboys and so on use their own variety of the language. ()
- 2) Each of us has, in a greater or less degree, so-called ‘speech-feeling’. ()
- 3) More Indians speak English than in England itself. ()

2. Keywords-Explanation of the Historical and Cultural Background

ビデオやテキストに出てきたキーワードについて、指名して答えさせる。

- 1) Creole
- 2) Cockney
- 3) RP
- 4) public school

3. Writing

その場で書かせた英文を2-3人の学生に口頭で発表させることもできるし、あらかじめホームタスクにしておいたものを集め、その中から内容がすばらしいものやユニークなものを紹介することもできる。

設問「英語がインドやアフリカなどで共通語として使用されているのは何故か？」

(英語で簡潔にまとめさせる)

< Submission of Mini-report >

今日の授業内容についての一コマコメント(あるいは疑問点)を書いた出席票を提出させる。内容が良いものや面白いものについては次回の授業時に適宜紹介する。

3. < 映画の英語 >

シラバス

授業の目標等

映画の英語が聞いているだけで理解できるようになりたいというのは、英語学習者の共通の願いである。これを実現するためには日常的な会話表現に通じ、しかも音声のみの英語を直ちに理解できなければならない。こうした能力はいわば総合的な能力であり、短期間で容易に身につくものではない。しかし、限られた分量の映画の台本であっても、それを十分に読解し、記憶した後で、映画を見るという経験は、これまで洋画を見ても理解できなかった英語が聞いて理解できるものだという自信を学生に与えることになる。この授業ではヘミングウェイの映画化作品を読解し、鑑賞することをとおして、映画の英語を理解するための基礎的な読解能力と聴取能力を養うことを目標とする。

授業の内容・計画等

教材としてヘミングウェイの小説を映画化した『脱出』(To Have and Have Not)を選ぶ。英語が比較的平明で、慣用的な英語表現も多く、しかも含蓄の深い表現で書かれているので十分に知的好奇心が満足されるテキストである。

1. 毎回、授業の最初に、これから講義する場面を見せる (Previewing)。
2. その後、各場面 (2場面程度、教科書にして6, 7ページ) を講義し、慣用的な表現や重要な単語を口頭で練習する。一人一人に質問するだけでなく、なるだけ全員が口や手を動かして英語を覚えるように指導する。
3. ビデオを再度鑑賞する。(予習をしていない学生はこの時初めて「映画の英語」を少し楽しむことができるだろう。) ビデオ鑑賞は授業の中行なえるように時間配分する。ビデオを見た後は、映画について英語で5問程度の質問を行ない、質問と回答をノートに筆記させる。(当てられた学生だけが答えるのではなく、すべての学生が質問と答えを筆記することが重要である。)
4. 最後に、「もう一度映画を見ますが、今度は途中でビデオを止めて、話されている英語の意味を聞きますので、注意して聞いて下さい」と説明した後で、ビデオを見せ、すでに学習した慣用的な表現や単語を学生に再現させる。この時、ビデオの一部をクラス全体にディクテーションとして課すこともある。

テキスト

Screenplay: *To Have and Have Not*, based on the novel by Ernest Hemingway, Screenplay by Jules Furthman & William Faulkner, Directed by Howard Hawks, 鶴見書店.

ビデオスクリプト

Scene A-2 Time from the beginning of the film: 0:03.40

EXT. OCEAN NEAR MARTINIQUE COASTLINE-LATER THAT DAY

Johnson in the stern holding a rod. Horatio, the negro bait cutter, folds up newspaper and sits up to watch. Eddy, the rummy, is sleeping on the deck. Harry Morgan at the wheel.

Morgan: Watch it, Johnson! There's your strike! Put on a little more drag, Not too Much!
You're gonna have to sock him. He's gonna jump, anyway! All right, hit'im again now! Hit him three or four times! Stick it into him!

Johnson obeys and hits a fish pretty hard a couple of times more. Then the rod bends double, the

reel screeches, and out jumps the marlin in a long straight jump, shining silver in the sun and making a splash.

Morgan: Better get the other teaser in.

Johnson: I've got him.

Morgan: Ease up on that drag.

Johnson: *(as line goes slack)* He's gone-

Morgan: No, he's not! Ease up on that drag! Quick! If he wants to go, let 'im go!

Johnson: H's gone!

Morgan: No, he's hooked good.

Horatio: He sure is.

Then once, twice, the big fish comes out stiff as a post; the whole length of him jumping toward the boat, throwing the water high each time he lands.

Morgan: Reel'im in!

Johnson: No. I'm sure he's gone.

Morgan: *(starting the engine)* I'll tell you when he's gone. Reel in fa-

Johnson works at his reel and all of a sudden his rod jerks and the line goes slack.

Morgan: *(in disgust)* Well, he's gone now-

Horatio: Yes, sir. He's gone now.

Johnson: No, he's not-turn around and chase him.

Morgan: Reel in that line.

Johnson: I can still feel him pull.

Morgan: *(leaving the wheel)* That's the weight of the line.

Johnson: You're crazy. I can hardly reel it in. Maybe he's dead.

Morgan: Maybe-but he's still jumping out there. FADE OUT 注)

メッセージ

テキストの全体的な目標は三つある。(1)扱われている映画の内容を理解し、戦争における抵抗運動について理解する。(2)このテキストを通じて、口語的な英語表現に慣れ、それが話された場合でも理解できるようになる。(3)原作と映画を比較し、映画化がどのように行われているかを考える。

授業展開例

1. ビデオを見せる。
2. stern, sit up, rummy, at the wheel, Watch it, Put on a little more drag, sock, Stick it into him, screech, Better get the other teaser in, Ease up, 'im, go slack, などの意味を説明しながら、全体の訳をする。予習を促すために、2, 3人の学生に“Ease up”や“Watch it”などの意味を答えさせる。

3. ここで使われている英語がこれまで学生が習ってきた標準的な英語ではなく、“gonna”や“im” “Better get the other teaser in.”といった口語特有の表現があることを指摘する。

4. Key Expressions for Memorization として教科書に特記されている、使用頻度の高い慣用表現を練習する。

“Watch it”

e.g. Mother: I'm going to go downstairs, Sally.

Sally: Okay, but watch it, mother; those stairs are very steep.

“ease up on someone/ something”

e.g. Wife: You are driving too fast. Ease up on the gas pedal.

Husband: You are always criticizing me. Ease up on me, will you?

5. もう一度ビデオを見て、英語で質問する。質問と解答はノートにメモをさせる。

1) As this scene opens, what is Johnson doing?

2) Does he get a strike?

3) Doesn't he catch the fish?

4) Is he a skillful fisherman or an unskillful one?

5) Which of the two men seems more competent, Johnson or Morgan?

6. 最後に、「もう一度映画を見ますが、今度は途中でビデオを止めて、話されている英語の意味を聞きますので、注意して聞いて下さい」と説明した後で、ビデオを見せ、すでに学習した慣用的な表現や単語を学生に再現させる。この時、ビデオを止めて質問する英語の表現は次の文章である。

1. You're gonna have to sock him.

2. Better get the other teaser in.

3. Ease up on that drag.

4. I can still feel him pull.

(4の表現については、最初にクラス全体でディクテーションをした後で、学生にその意味を質問する。)

ひとつのシーンが終わったら、次のシーンについても同様なやり方で授業を進めていく。上の教材は実際の90分の授業のうちの30分弱のテキストである。したがって実際の授業では約3倍の分量のテキストを講義し、ビデオを見せ、質問をしていくことになり、時間的に『脱出』は半期で終えるには多すぎる教材かも知れない。しかし、学生に十分な予習をしてもらうことを要求すれば、たとえ時間の余裕がなくなった場合でも、ポイントだけを指摘するだけで、ある程度満足の行く理解をさせることはできるだろう。言うまでもなく、教師の側の十分な教材研究とスムーズな授業運営の工夫は不可欠である。

補助教材

ヘミングウェイの原作の小説。映画についての論文の抜粋。

注) 鶴見書店が出版したテキストは、『脱出』のビデオのなかから30シーンを選び出し、スクリプトとして提供している。授業は14回の演習と1回の期末テストから構成されるので、このテキストを終わるためには、毎回ほぼ2場面を講義する必要がある。ここに挙げたスクリプトは、テ

クストで取り上げられたシーンのなかでも比較的短いシーンであり、それに基づいた授業の教案を考えてみたものである。この教案は改善すべき点が多々あり、ましてやモデルでは決してない。また、実際の授業は学生の反応にしたがって臨機応変に変化させていかなければならないことはいうまでもない。

4. <男性学入門>

シラバス

授業の目標等

1960年代以降のフェミニズム理論と運動は、女性の問題をまず「女性による、女性のための問題」としてとらえ、女性の社会的・文化的変革を押し進めてきた。しかし、女性の問題と男性の問題はいわばコインの両面にあたる関係にあるから、女性問題は同時に「男性問題」を顕在化した。そして今や「男のアイデンティティは何か」「真の男らしさとは何か」「新しい男女関係はどうあるべきか」などについて男性自身が真剣に考えなければならない時となっている。アメリカの大学ではこれが“Men's Studies”としてカリキュラムの重要な一部を占めているが、この授業でも「男性学入門」として「男性問題」を考えるきっかけを提供する。

なお、この授業は主に英語のリーディング及びライティングの能力を発展させることを目的とするものである。

授業の内容・計画等

- Unit 1 Introduction
- Unit 2 Men in Difficult Times (1)
- Unit 3 Men in Difficult Times (2)
- Unit 4 Men in Difficult Times (3)
- Unit 5 In Search of the Real Male (1)
- Unit 6 In Search of the Real Male (2)
- Unit 7 In Search of the Real Male (3)
- Unit 8 Male Issues (1)
- Unit 9 Male Issues (2)
- Unit 10 Male Issues (3)
- Unit 11 Men in Relationships (1)
- Unit 12 Men in Relationships (2)
- Unit 13 Men in Relationships (3)
- Unit 14 Conclusion
- Unit 15 Exam.

テキスト

次の1を教室におけるリーディング用テキストとし、2, 3をサブテキストとする。

1. Jack Balswick, *At the Crossroads: Beyond Traditional Roles & Modern Options*. InterVarsity Press, Downers Grove, Illinois, 1992
2. Christopher T. Kilmartin, *The Masculine Self*. Macmillan Publishing Co., 1994
3. Franklin Abbott ed., *Boyhood, Growing Up Male*. The Crossing Press, Freedom, Cal., 1993

メッセージ

この授業は主に英語のリーディング及びライティングの能力を発展させることを目的とするものだが、同時に学生一人一人が男性の問題をみずからの問題として捉え、意識を深めることも重要な狙いとしている。従って、学生の能動的な作業と活発な発言を前提とするものである。

授業展開例

授業は、3ユニット単位で、次のような順序で展開される。

1. テキスト読解の前に、テキストの内容に関連したトピックについて、学生の意見を日本語で聞く。
2. ネイティブ・スピーカーによるテキストの朗読を聴く。
3. 特殊な用語を解説する。
4. 和訳あるいは和訳なしで、テキストの内容を把握する。
5. テキストの英語・内容に関して種々の Exercises を設け、学生にやらせる。
6. あるトピックについて、学生にあらかじめ準備させて、発表させる。(日本語)
7. 学生に簡単な英文で意見を述べさせる。

[Unit 2]

(授業のテーマや目的などを説明した第1回目の Introduction に続く第2回目の授業)

<Prereading Preparation>

1. 現在の「男性問題」(Men's Issues) とは何か、男性のどこに問題があると思うかについて学生の意見を聞く。

<General Reading>

ネイティブ・スピーカーによる次のテキストの朗読を聴く。

Men in Difficult Times: Who Stole My Script?

- 1 Imagine the anxiety of an actor who walks out on stage and suddenly discovers
- 2 that he cannot remember vital lines that belong to his role. Changing definitions
- 3 of masculinity have brought many men a similar anxiety in their daily lives.
- 4 Take Bill for example. Bill, a twenty-five-year-old computer analyst, has asked
- 5 Sue for a date. After spending Saturday afternoon washing and polishing his car,
- 6 he arrives at Sue's apartment to pick her up. The ride to the restaurant is filled
- 7 with enjoyable talk about similar interests. As he parks and they walk down the
- 8 street to the restaurant, Bill suddenly realizes that he is walking on the inside
- 9 of the sidewalk. Should he tactfully slide around to the street side? Will Sue
- 10 interpret this as patronizing or chauvinistic? What should he do?
- 11 As they approach the restaurant door, he steps ahead and gallantly holds the door
- 12 open for her. Again, he wonders how this act will be interpreted.
- 13 He wishes there were a clear script for being a male.
- 14 Burt and Nancy have been married for five years and now have two children, ages
- 15 two and four. Nancy cares for the kids at home while Burt works full time in an
- 16 office. As Burt enters the house after a busy day, he kicks off his shoes, turns
- 17 on the radio and reads the evening paper while Nancy busily prepares the evening

18 meal. Burt suddenly realizes how “traditional” this is and wonders whether Nancy
19 is resentful because he isn’t helping with the meal. He has no clear script for
20 being a husband.

21 The next day Burt goes shopping for Christmas gifts. He selects a doll for
22 little Heather and a baseball glove for his son, Jacob. As he is about to pay for
23 his purchases, he suddenly wonders whether his gifts are reinforcing sexist stereo-
24 types in his children. Confused, he’s not sure what to do.

25 In past times, men were guided by a clearly defined male script. This script was
26 clear, especially because it complemented a clearly defined female script that any
27 woman could follow. In a world where “men were men and women were women,” there
28 was little gender-role confusion.

29 The question of what it means to be a man has only recently surfaced. Throughout
30 most of history it was taken for granted that men acted like men because that was
31 their nature, and women acted like women because they were made that way. Only
32 after the social and behavioral sciences emerged have we begun to question the
33 notion that physiology alone is responsible for sexual temperament and behavior.
34 Crosscultural research has led social scientists to conclude that culture rather
35 than nature is the major determinant of temperamental differences between the
36 genders.

37 And today, cultural change means that many of us are not exactly sure what it
38 means to be a man. As boys most of us learned a traditional image of manhood that
39 has formed the basis of our masculine identity. As traditional definitions of
40 gender roles have been called into question, though, we find that we’re sometimes
41 criticized for being who we were taught to be and doing what we were taught to do.
42 We began the ball game with clearly defined and understood rules, but halfway
43 through the game the rules changed.

44 Not surprisingly, we’re confused. If we behave like traditional males we’re
45 called insensitive, chauvinistic, paternalistic, condescending or even sexist.
46 Disliking these labels, many of us have entered a period of soul searching or
47 consciousness raising, exploring not only our attitudes toward women but also our
48 feelings and beliefs about men and masculinity.

<Word Comprehension>

次の語句の解説をする。

“anxiety,” “masculinity,” “femininity,” “chauvinistic,” “reinforcing sexist stereotypes,”
“gender,” “gender-role,” “paternalistic,” “consciousness raising,”

<Intensive Reading>

学生に指名して、パラグラフ単位に音読させ、次のような質問をする。

質問1：3行目の “similar anxiety” を説明しなさい。

質問2：Billの例を要約しなさい。またこの例は何を示すためのものですか。

質問3：Burtの最初の例を要約しなさい。またこの例は何を示すためのものですか。

質問4：Burtの2番目の例を要約しなさい。またこの例は何を示すためのものですか。

質問5：27行目の“a world where 'men were men and women were women'”を説明しなさい。

質問6：31-33行目の“Only after ~ behavior.”を説明しなさい。

質問7：40-41行目の“we find ~ to do.”を和訳しなさい。

質問8：46行目の“Disliking these labels”を説明しなさい。

<Post-Reading Exercise>

「出席表」の「Memo」欄に、次の課題について記入し、提出させる。翌週、学生が挙げた例をプリントで示し、Pre-reading Preparation に用いる。

課題：伝統的に考えられている「男らしさ、女らしさ」の例をそれぞれ5つ英語で書きなさい。

V. 「総合英語」実施上の問題点

以上のように、「総合英語」の概念規定、教育目標の設定をおこない、具体的なシラバスと授業例を提示して、この新しい英語の授業科目の全体像を示したが、実際に授業実施の段階になるとさまざまな問題や困難が生じるであろうことは想像にかたくない。

次の諸点は、「総合英語」の授業を実施する前に想定される問題点であり、平成10年度に実施したあとで検証されるべきものである。

1. 現在、「総合英語」の授業は1クラス約80名でおこなうことになっている。このような大人数のクラスで「演習」としての授業をおこない、学生の英語力の向上をはかろうとすること自体に無理があることは明らかだ。クラスサイズなどの条件が動かせないものだとすれば、この授業の内容と方法に関してもっと大胆な発想の切り替えが必要であるかもしれない。

2. すべての授業についても言えることだが、特に語学の授業では、学生の能動的な授業参加が不可欠である。「総合英語」の授業では、テーマに関する意見発表や討論、英文読解や聴解のための質問に対する応答を学生に求めることによって学生の能動的な授業参加をはかることにしているが、学生の受講時の実態を考える時、これが担当教官が意図するとおりに円滑に機能しないことが十分考えられる。

3. 「総合英語」の各授業のテーマは、各担当教官が設定することになっているので、多種多様なものとなると考えられる。どのようなテーマであれ、すべての受講学生の興味を満足させることは不可能であるにしても、学生にテーマを選択させる機会だけは与える必要があると思われる。

4. 「総合英語」を活性化するには、学生にできるだけ多くの作業を与え、作業の結果を提出させ、それを授業担当者が点検し、返却してフィードバックをはかることが必要である。これも大人数授業では困難なことだが、担当教官は今まで以上に授業に時間とエネルギーを注ぐとともに、ティーチング・アシスタントを有効に活用するなど工夫を凝らすことが必要となるであろう。

<付> 「総合英語」開設に至る経過

上記のような実施の形態をとる「総合英語」という外国語科目を開設した意図を理解するには、広島大学における今までの英語教育の変遷を理解しておくことが必要であると思われるので、まずこれについて簡単に触れておく。

昭和48年度（1973年度）以前：広島大学では、開学から教養部が存続した昭和48年度までは、外国語科目英語の教育は「英語」というただひとつの授業科目によっておこなわれていた。「英

語」の標準的履修は、8単位必修、2年次末まで100分授業を毎週2回受講するというものであった。授業の曜日・時限・担当教官・使用テキスト等はすべて指定され、また、授業内容・形式も担当教官に一任されていた。授業内容・形式は英文講読が90%、LL・会話・作文等が10%、また、1クラスの人数は平均57名（昭和48年度）であった。

昭和49年度（1974年度）から平成5年度（1993年度）まで：総合科学部が創設された昭和49年度からは、英語の授業科目及び標準履修単位が「英語Ⅰ」4単位（1年次履修）と「英語Ⅱ」4単位（2年次履修）となった。また、LL教室の増設や外国人教員の増員等により、授業内容・形式も英文講読66%、その他34%（昭和62年度）となり、「実用性」重視への傾向が明確になった。しかし、この間、大学英語教育の内容を変えもっと教育効果をあげよという学内外からの声に応えるべくさまざまな努力と試みがなされてきたが、抜本的な変革とはならなかった。

平成6年度（1994年度）から平成8年度（1996年度）まで：大学設置基準の「大綱化」に際して、広島大学は、組織上の変革はおこなわなかったものの、「一般教育」等を「教養的教育」に改めるなど、カリキュラムの部分的改定をおこなった。英語については、まず授業科目及び標準履修単位を「総合英語」4単位（1年次履修）、「スピーキング」「リスニング」「リーディング」「ライティング」（以上を技能別英語と総称）2単位（2年次履修）計6単位とした。「総合英語」とは、英文テキスト、視聴覚教材等を用いて英語の4技能を区別することなく総合的に習得することを目的とする科目であり、単独の授業あるいは1年次の前・後期に受講する4つの授業を通してこの目的が達成できるよう工夫をこらしたものであった。また、技能別英語は、科目選択制をとり入れて学生が希望する技能を伸ばそうとするものであった。なお、1クラスの人数の上限を「総合英語」は60名、技能別英語は35名とした。2年次に履修する英語の単位を4単位から2単位に減らしたのは技能別英語のクラスを35名とし、より高い教育的効果を目指した結果であった。

平成9年度（1997年度）以降：平成9年度からは、教養的教育の理念と目標が再検討され、その実施が総合科学部から全学的組織に移ることになり、また、外国語教育研究センターが設置されるなど、教養的教育の大幅な改革がおこなわれた。英語教育については、「すべての学生が、専門分野に関係なく、国際社会におけるコミュニケーションの基礎となる英語の力を身につけること」が最優先の目標として掲げられ、授業科目及び標準履修単位が一部の学部学科を除いて「スピーキングⅠ」「リスニングⅠ」「リーディングⅠ」「ライティングⅠ」（以上を技能別英語Ⅰと総称）の中から4単位（1年次履修）、「スピーキングⅡ」「リスニングⅡ」「リーディングⅡ」「ライティングⅡ」（以上を技能別英語Ⅱと総称）及び「総合英語」の中から2単位（2年次履修）6単位となった。技能別英語については、1クラスの人数の上限を「スピーキング」「ライティング」は35名、「リスニング」「リーディング」は60名とし、また、習熟度別クラス編成もおこなうこととした。

参考文献

- The Universe of English*, 東京大学教養学部, 東京大学出版局, 1994
The Expanding Universe of English, 東京大学教養学部, 東京大学出版局, 1996
田中慎也, 『どこへ行く? 大学の外国語教育』 三修社, 1994
山本雅代, 『バイリンガルはどのようにして言語を修得するか』 明石書店, 1996
大木正夫, 『授業と評価—改革への道標』 リーベル出版, 1997
赤堀侃司 (編) 『ケースブック大学授業の方法』 有斐閣, 1997

高山誠太郎『英語ディベートABC－討論入門篇－』学書房，1986

Robert Lapsley & Michael Westlake, *Film Theory: An Introduction*, Manchester University Press,
1994

青木孝夫編 『演劇と映画－複製技術時代のドラマと演出』晃洋書房，1998

ABSTRACT

Report on the Launch of a New Course <Integrated English>

This project aims to establish the environmental goals of a new course called <Integrated English> and to find suitable materials for it. We also investigate similar courses in other major Japanese universities.

The aims are:

1. To collect and study reference books concerning innovation in English education in Japan
2. To establish the concept of <Integrated English> clearly
3. To work out the content and teaching methods for <Integrated English>
4. To form some syllabi for several prototype classes
5. To identify possible problems in practice
6. To find ways to evaluate the class

The example syllabi in this report are as follows:

1. English in environmental studies
2. English as a language for global communication
3. English in movies
4. Introduction to men's studies

In order to clarify the idea of <Integrated English>, we include as an appendix a brief document on the history of innovation of English language education at Hiroshima University.